



約100年前のパリにおける日本人留学生のパートナーシップをさぐる

教育学部 教授 藤井 浩基

鳥取県米子市出身で昭和・平成に活躍した音楽家、高木東六（たかぎ とうろく 1904-2006）の研究をライフワークとしています。

高木は1928年から1932年にかけてパリに留学し、ピアノと作曲を学びました。芸術の都パリでの生活は困難の連続でした。しかし高木は、声楽の佐藤美子、美術の島崎鶏二、浜口陽三、吉井淳二、演劇研究の川島順平ら、同時期にパリで学んでいた異分野の日本人留学生と、互いに助け合い乗り切っていました。帰国後、彼らは各分野の第一線で活躍します。

留学生活の様子が詳しく記された高木肉筆の日記が残っており、私にご遺族の提供を受けて翻刻しました。その成果公開を兼ねて、高木生誕120年の2024年に「朗読とピアノ・歌でつづる高木東六パリ留学日記」と題した朗読コンサートを米子市公会堂で開催しました。この模様はNHK松江放送局の「しまねっとNEWS 610」で紹介されました。 <https://www3.nhk.or.jp/lnews/matsue/20241018/4030020203.html>